

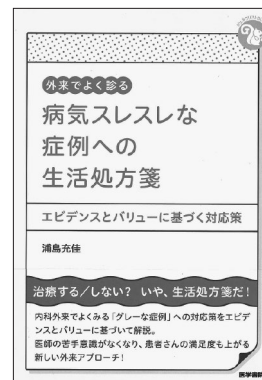
BOOK Review

《ジェネラリスト BOOKS》

外来でよく診る

病気ストレスな症例への 生活処方箋

エビデンスとバリューに基づく対応策



評者 今村 英仁 公益財団法人慈愛会理事長

「Value-based Medicine (VBM) とは何か?」この本を手
に取った方はまずこの疑問を持たれることだろう。そも
そも著者は、EBM (科学的根拠に基づく医学) の大家で
あり、「いかにしてエビデンスを作り、利用するか」を著
した書籍や、その基本となる臨床統計学の教科書など、
多数のEBM関連著書を出版している。

一見、エビデンス (科学的根拠) とバリュー (価値観)
では正反対の概念のように思われる。とうとうEBMに
愛想を尽かしてVBMに寝返ったのかなと言うと然にあ
らず。この本を読むとVBMはしっかりしたEBMの基盤
の上に成立することがよくわかる。“治療”の際にはEBM

が大きな力を発揮する。“予防”の際もエビデンスはしっ
かりと蓄積されてきている。ただ、「馬を水辺に連れてい
くことはできても、水を飲ませることはできない」。エビ
デンスを振りかざしてもなかなか実行してもらえないの
が予防の世界である。そこで出てくるのがVBMである。

この著書は、How to make ValueからHow to use Value
までVBMとは何かを理解し、さらに実行するための教
科書にして実用書である。著者自身の体験を踏まえてい
るのでより説得力が高い。後は、ぜひ本書を読み下して
やさしく「水を飲んでもらう」ようにしていただきたい。

浦島 充佳 著

A5判/212頁/2018年/定価(本体3,600円+税)/ISBN978-4-260-03593-4/医学書院刊